

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-523448 (P2004-523448A)

【公表日】平成 16 年 8 月 5 日 (2004.8.5)

【年通号数】公開・登録公報 2004-030

【出願番号】特願 2002-546050 (P2002-546050)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 3 B 5/43

C 0 3 B 17/06

【F I】

C 0 3 B 5/43

C 0 3 B 17/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 19 日 (2004.11.19)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 6】

表 2 は、T A B L E C U R V E 3 D プログラムを用いて、図 2 に関する平均クリープ速度および 9 5 % 信頼区間を測定した結果の集計である。このデータを得るために用いられた、T i O₂ 含有量が 0 . 3 重量 % よりも多いジルコン耐火物と少ないジルコン耐火物とは、表 2 に示されたものと同様の M C R 値と C B 値とを示すであろう。特に、ジルコン耐火物の T i O₂ 含有量が 0 . 2 重量 % よりも多い場合に、従来用いられたジルコン耐火物と比較して、M C R 値および C B / M C R 値が低くなった。この改善された特性は、T i O₂ 含有量が 0 . 3 重量 % を超えても持続された。しかしながら、ジルコン耐火物の T i O₂ 含有量が約 0 . 4 重量 % に達すると、アイソパイプとガラスとの境界面に酸素の気泡が発生する可能性がある。したがって、本発明によれば、ジルコン耐火物の T i O₂ 含有量を、0 . 2 重量 % を超え、0 . 4 重量 % 未満とすべきである。